

課題の類型 1	課題の類型2	課題の詳細	左記課題の解決のために 本事業で取り組むこと	本事業で達成する目標 (アウトカム)	目標の達成度を 測る指標	現状の 数値	単 位	本 年 度 の 目 標 値	本 年 度 の 実 績 値	アウトカムの達成度に関する評価・分析 (事業における成果、課題、改善点等)
①学校運営上の課題	社会に開かれた教育課程への対応	将来の変化を予測することが困難な時代であっても、子どもたち一人一人が夢と志を持って自ら未来を切り拓いていけるよう、確かな学力・豊かな心・健やかな体をバランスよく身につけられる教育を推進していく必要がある。	大学や民間企業と連携した学習系・スポーツ系の講座・イベントプログラムの実施。 地域人材を活用したスポーツ教室やプログラミング教室等の実施。	児童の健やかな心や主体的に学習に向かう態度を育む。体力向上に向けて運動好きな児童を育てる。	参加児童対象アンケートにおいて、 ・学力レベルを伸ばした児童の割合 ・運動やスポーツが好きだと答えた児童の割合		%	・70 ・85	・40 ・42	2 ・現状の数値が分からない状態での目標設定だったため、現実的ではない目標設定となってしまった。 ・令和5年度に実施した参加児童を対象としてアンケートに、質問項目を新たに増やし、現状を把握することができた。 ・令和6年度は本年度の目標を継続し、指標は半数(50%)を目標として、多種多様なイベントプログラムを実施する。 ・令和6年度予算から、講師謝金等の予算措置を改め、多種多様なイベントプログラムをココフレンド毎に設定できるようにした。
②学校と地域の課題	青少年の健全育成	地域活動等へ参加し、多世代との交流や成功体験が、自己肯定感の向上に繋がると考えられるが、本市はその機会の提供が少ないことが課題となっている。	毎日放課後子供教室を実施している特色を生かし、まずは高学年の積極的な参加を促す。 高学年児童が企画・運営したり、まとめ役となるイベントプログラムを実施する。コーディネーター及び教育活動サポーターは計画から実施までのサポートを行う。	イベントプログラムの成功体験及びサポートした周囲の大人から褒められることで自信をつける。また低学年児童はその姿を見て、憧れを持つようになり、下の学年の児童に対してお手本となる行動ができるようになる好循環が生まれる。	高学年が企画・運営したり、まとめ役となったイベントプログラム実施件数	1	件	17	7	2 ・協力してくれた高学年児童に対しては、自己肯定感の向上に繋がる取組となったと言える。また、引き続きココフレンドに参加してくれることも期待できる。 ・実施したココフレンドのうち、半数以上は今後も定期的に実施したいと考えている。その中には、まとめ役に興味を持った低学年児童がいるようで、その児童を中心に行いたいと考えているココフレンドもある。 ・実施できなかったココフレンドから理由を聞き取ると、「参加児童が多すぎる」「手のかかる児童対応で余裕がない」「そもそも高学年が参加しない」という理由が挙げられた。 ・令和6年度については、令和5年度と同じ内容、同じ数値を目標として設定する。 ・コロナのため参加の制限を受けた児童は5・6年生になるため、コロナ前の参加状況にはまだ戻らないことが見込まれる。本取組を中長期的目標とすることで、高学年児童の参加を増え、日々の活動の中でも異学年交流による自己肯定感の向上等に繋がる活動となることを目指す。